〔安西軍策一〕大内藝州銀山櫻尾圍兩城事

大永四年五月二十日、大内義興息周防介義隆、防長豐筑ノ勢三萬餘騎ヲ率、周防ニ打出、岩國永興寺ニ著陣シ、茲ニテ二手ニ分、○中略一方ハ義興自大將トシテ、一萬餘騎、草津二保島ノ城ヲ攻落、ソレヨリ櫻尾神主ガ城ニ寄テ攻戰フ、

〔安西軍策二〕三浦越中仁保島合戰事

同年○弘治元年陶入道全薑、防長豐筑ノ勢ヲ催シ、先嚴島仁保廿日市邊ノ城ノ樣體爲見計トテ、三浦越中守ニ究竟ノ兵四五百騎相添、舟數艘ニテ差遣ス、草津廿日市ノ沖ヲ漕廻、仁保ノ島ヘ漕寄上リケリ、

〔道ゆきぶり〕備後の尾道より安藝國ぬたといふ所にうつり侍る、道は南東へ出たる山あり、ひがたをへだてたり、いぬゐにそひていそ路はるかにゆくに、吉和といふ所あり、○中略其海中に木ぶかき小島二ならびたり、是なんくぢら島といふなり、年ごとの玄はすに、くぢらといふうを多くよりきつゝ、又のとしのむ月に又かへり侍るとなん、是はこゝにいます神の誓にてかく侍ると、海人どもの申也、其より猶南に大海に出るさかひをば、めかりの浦とぞいふなる、○略歌北より南にさし出たる山さきに、松や檜原玄げりて、いとおもしろきおのへあり、いとさきとぞいふ、○略歌むかひにひがたをへだてたる山を、ゐんの島といふ也、

〔藝備國郡志上安藝形勝〕地勢廣濶、風氣和暖、二川交流、夾環州治、田宅豐饒、四民安逸、

地勢

〔藝藩通志一安藝〕疆域形勢

およそ山陽の國勢は、皆山に背き海に向ふ、當國も亦玄かり、長山うしろに横りて、山陰道を隔、海水前に繞りて南海道に接す、大抵北は高く、南は低し、氣候南北同じからざれど、多くは和暄なり、田地山間に在、狹くして美からず、北境は民戸稀少にて鐵を採て生理を助く、南方は民戸稠密山